

様式1 平成31年度 山梨県立富士見支援学校本校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	---------------------------------------------------------------------------

山梨県立富士見支援学校校長 中村千尋

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。
	2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
	3 病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(12月20日現在)		
				方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画を作成・活用する。個別の指導計画に基づいた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	A	・個別的教育支援計画については、時間の経過と共に大きく変化する本校児童生徒の病状や保護者の状況等に合わせ詳細に記した文書を作成し、活用することができた。 ・個別の指導計画については、詳細な記述を基に客観的な指標を用いて評価を行い、その妥当性については職員間の討議を通じて十分に検証することができた。
			児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	A	・県指定2か年の「合理的配慮」に関する実践研究事業の取組を兼ねながら、「授業実践の提案や意見交換・情報交換を中心とした学部研究活動を継続してきた結果、これまでの成果の上にも上積みを図ることができた。また、児童生徒の学習指導や支援につなげることができた。
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	A	・年度途中の転籍児童生徒数が急激に増加したが、その都度の確実な把握を行い、身につけさせた力を教師間で確認し、具体的な支援方法を検討、実施することができた。 ・本年度も進路指導年間計画を基に各学年で実態に合った指導を行えた。特に本年度は中学部2年生で職場体験学習を実施し、具体的な進路学習を進めることができた。
			児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	A	・保健体育の授業や自立活動を通して心身の状況把握や課題に向けた取り組みができた。養護教諭と体育科教員による保健指導を小・中学部ごと、発達段階に応じて実施することができた。 ・道徳教育全体計画に基づき実施した。保健委員会の活動を通して、自己の役割を自覚し、協働の意義を学ぶことができた。
3	病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	積極的な情報発信を行い、病弱児教育への理解と啓発に努めるとともに、関係機関との連携を充実させる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	A	・HPやブログ、学校便り等の内容の充実を図り、タイムリーな情報発信に努めた結果、多数の更新があり、転入や支援問い合わせが多かった。 ・病弱連携協議会は、病弱学級の増加に伴うニーズの多様化に対し、専門性の向上にかかわる情報発信に努めた結果、病弱学級担当者の連携強化、資質向上につながった。
			児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	A	・今年度は昨年度よりも新規の来校相談ケースが増えた。不登校の改善につながったケースもあった。 ・来校相談をきっかけに、学校生活にかかわる情報(いじめ等)を学校と共有し、対応を一纏に考えることで、校内の支援体制の構築や充実につながった。 ・在籍校の担当と丁寧に情報共有することで、教員の理解を深め、支えにつなげることができた。

学校関係者評価	
実施日(令和2年2月21日)	
評価	意見・要望等
4	・学校生活では、行事なども含めて児童生徒が意欲的に段階的に学べるように、また、児童生徒の学習進度に応じた丁寧な授業の様子がうかがえる。 ・保護者や関係機関などとの連携で教育支援計画を活用しているが、今後も連携を深めていく必要がある。北病院の予約は2か月待ちである。様々な社会のニーズに応じられる機関になっていけるとよいのだが、課題も多い。 ・長期間に在籍する児童生徒も増えてきているので、授業計画をしっかりと立てて対応していく必要がある。 ・いじめの問題がないことは良い。様々な問題はあるけれども、校内では落ち着いた教育ができています。
3	・キャリア教育の観点から、高等部段階への進級につながる進路指導を工夫していくことが必要であると感じる。 ・生活の中にSNS関係で影響があることにはどのように対応していくことが望ましいのだろうか。北病院でゲーム依存のプログラムを始めようと考えている。 ・特別支援教育(病弱教育)の高等部段階の指導が県内では保障されていない。4月からの新設校も高等部は設置していない。今後検討が継続されていくが、よりよい方向性について考えよう。
4	・高等学校の後の大学生活でも様々な課題を抱えている現実を見ている。個々の心情が様々な児童生徒に進路指導はとても難しいと思うが、先生方で情報を共有し考えよう。 ・発達障害が増えているといわれているが、精神疾患で身体化している子供たちは今20倍に膨れ上がっている現状である。富士見支援の役割は大きい。 ・教育相談も含めて今後も校内での教育活動などを校外に発信していくことが必要である。個人情報などの規制もあることも十分承知しているが、発信方法について検討するとよい。 ・ここサボやセンター的機能なども含めた相談業務も充実した取り組みの様子である。相談したのちその主訴や原因を在籍校や関係機関と連携しながら相談者の気持ちに寄り添い社会生活につながる方向性を考えることよい。 ・本校の在籍者が増進していて、分校は在籍者が少ない現状をどのように改善していくことがよいのか。立地条件など様々な要因もあると思うが、教職員の増員も必要ではないか。 ・先生方の働き方改革やストレスマネジメントも考える必要がある。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。